

漢字圏留学生を対象とする 日本語表現の習熟度の調査

—新型コロナウイルス感染の関連記事を例に—

彭 飛

「新型コロナウイルス」は中国語で“新冠肺炎”と言い、また“新冠病毒肺炎”“新型冠状病毒肺炎”とも言う。本調査は朝日新聞 2020 年 4 月 1 日～4 月 15 日(朝刊、夕刊)における新型コロナウイルス感染拡大の関連記事を対象に、使用頻度の高い表現、例文を抽出し、さらに 2020 年 4 月 16 日～5 月 5 日において、京都外国語大学在学中の漢字圏留学生(70 人)を対象にアンケート調査・電話調査を実施し、新型コロナウイルス関連の日本語表現の習熟度について調査したものである。

次に二節に分け、第 1 節ではアンケート調査・電話調査による結果からみた日本語と中国語との相違、及び漢字圏学習者にとって難解な日本語、日本語指導の問題点について考察する。第 2 節では留学生を対象とする日本語表現の習熟度の調査について報告する。

第 1 節 調査結果からみた日本語と中国語との相違

紙面の関係上、今回のアンケート調査・電話調査からみた日本語と中国語との相違、漢字圏学習者にとって難解な日本語を 3 例、取り上げることとする。

(1) 日本語の漢語表現の習熟度

日本と中国では両方とも漢字を使っているため、日本語の漢語表現はたやすく身につけられると思ったら大間違いな事がよく分かる。今回のアンケート調査・電話調査から、漢字圏学習者に難解な漢語表現を分析すると、次の三つの

パターンになる。

①日本人の作った漢語表現

「自肅」という表現は古代中国語には見当たらず、日本人により作られた表現と見ている。中国語に訳すと、“自律”“自律自制”“自戒”“自我克制”“自我约束”となる。

「要件」(肝要な事柄、必要な条件)という表現も古代中国語には見られず、日本人の作った表現である。ただし、100年前の中国で一時的に使われており、現代中国語ではあまり使われていない。

②古代中国語に由来するが、一部の用法は日本人が作った表現

日本語の「当面」は古代中国語に由来するものである。ただし、古代中国語の“当面”は目の前、面と向かって、という意味として使われていた。“邪佞每思当面唾”(唐・杜牧『商山富水驿』)がそれである。現代中国語でも「面と向かって」の意味で使われている。日本語の「当面」は「目下」「さしあたって」という意味で、この使い方は古代中国語には見られず、日本人により作られた用法と思われる。休業を伝える店頭の掲示の「当面の間」は一定の期間、しばらくの間を表すが、留学生には分かりにくい。

「自覚」という漢語表現も古代中国語の“吾有三失, 晚不自覚”(『孔子家語・致思』)に見られ、仏教語としてもよく用いられていた。ただし、「自覚症状」という表現は古代中国語には見られず、日本人の作った表現と見られる。

「覚悟している」は日本語的な表現であるが、「覚悟」という漢語は古代中国語では「覚醒」の意で使われていた。“不覚悟, 不知苦, 迷惑失指易上下”(『荀子・成相』)がそれである。仏教語としてもよく用いられていた。

「収束」は古代中国語では束縛する、ひもや縄などで結んで束にすることを表していた。“菅柔忍中用矣, 而更取白茅收束之”(漢・鄭玄)がそれである。ただし、日本語の「混乱した物事が収まる」「決着がつく」という意味の用法は古代中国語には見られず、これも日本語的な表現である。

「結束」は古代中国語では梱包する、縛るという意味で使われていた。“其男衣皆横幅結束相連”(後漢書・東夷伝・倭)がそれである。現代中国語では「終

わる」意として使われている。だが、現代日本語では、本来ばらばらのものを、紐などでくくって一つにまとめるという意味に拡大され、「結束を固める」「仲間の結束が固い」のように、志を同じくする者が団結するという意味として用いられている。これも日本語的な用法と見られる。

③ 古代中国語で用いられ、現代中国語では使われていない漢語表現

「給付金」の「給付」は現代中国語では法律用法に限って使われており、使用頻度は低いが古代中国語にも見られる。“候敕下委祠部給付凭由”(宋・洪迈『容斋三笔/僧道科目』)がそれである。

「連帯」は現代中国語では使われないが、古代中国語では使われ、『説文解字』では「二つのものを繋げる、結び付ける帯」と解釈している。「連帯責任」の表現は法律用法として使われるが、仲間意識の「連帯感」のような人間と人間との結びつき、連携、団結の意味としては使われていない。

「深刻な問題」の「深刻」(問題が重大で厳しい)の用法は古代中国語でも使われていた。「是時趙禹、張湯以深刻為九卿矣」(『史記・酷吏列傳』)がそれである。現代中国語の“深刻”は主として「掘り下げて」「深く」という意味で使われ、切迫し、重大なことを表す意味としては使われない。

以上のように日本人の作った漢語表現、日本人により意味拡大された用法、現代中国語では使われず、古代中国語ではよく使われ、現代日本語に引き継がれて使われている漢語表現は、漢字圏学習者には非常に難解であることが分かった。そのほか「感染爆発の瀬戸際」の「瀬戸際」、「緊急事態宣言の発出」の「発出」、「不要不急」、「コロナ禍」などの表現も現代中国語には見られない。

(2) 二字漢語動詞の受動態

アンケート調査紙に“昨天他在车站里被感染上了新冠肺炎”を日本語に訳しなさい」という調査項目があった。「昨日、彼は駅で新型コロナウイルスに感染した」の訳が正しいのだが、漢字圏学習者のほとんどが「感染された」という受け身の形で訳していた。中国語の“感染”は通常、受け身の形をとり、被害的というイメージが強いからである。母語による影響だと見られる。

日本語の「うつす」という動詞の場合、「孫にうつされた夏風邪が、いつまでたっても治らない」「彼は妹から風邪をうつされた」「新型コロナウイルスの感染力は発症前が最も強力だと判明、感染者の半分が発症前の人からうつされている」のように受身形をとる。だが、日本語の「感染する」は通常、受動態の形をとらないのが特徴で、学習者が間違えやすい例であることが今回の調査から判明した。

「感染する」と同様、「感電する」も「昨日の話なんですが、生まれて初めて感電しましたよ」「浴室の蛇口に触れたら感電してビリビリとしびれた」「コードの先を舐めて口に入れたところ、感電してしまったのだ」のように通常、受動態の形をとらないのが特徴であり、これも学習者の間違えやすいところである。

『日本語基本動詞用法辞典』（注1）を調べたところ、「感染する」「感電する」は収録されていない。よく使われている二字漢語動詞のほとんどが収録されていないことに驚いた。『現代日本語の二字漢語動詞の自他』（注2）も「感染する」「感電する」の用い方に触れていない。二字漢語動詞の自他の認定及び受け身の問題は今後、もっと注目すべき課題になると見ている。

日本語において、「軽視される」「空爆される」「解雇される」「奇襲される」「猛襲される」「冷笑される」「嘲笑される」「疎外される」「惨殺される」「刺殺される」「絞殺される」など、本来は他動詞だから受け身の形をとるが、「感染する」「感電する」は自動詞だから受け身の形をとらないとの解釈もあるが、マイナス的評価をもつ二字漢語動詞の場合、「汚染された」のように受け身の形をとる場合もある。

「感染する」「感電する」が「転落する」「溺死する」と同じように本人の不注意による失敗の場合、自動詞は受け身の形をとらない、と解釈する可能性について今後、考えていく。

(3) 日本語形容詞の派生名詞の習得

今回のアンケート調査・電話調査でもう一つ分かったことは、漢字圏学習者は

「形容詞語幹+さ」の習得がとても苦手、ということである。「だるさ」のように形容詞(だるい)⇒転生・派生名詞(だるさ)となり、「一さ」「一み」を繋いで形容詞を名詞化する語彙が日本語には多い。

「倦怠感」の表現なら漢字圏学習者は理解できるが、「だるさ」は使いこなせない。これは漢字圏学習者向けの日本語教育の弱点、日中辞書や日本語教材の編纂の問題点とも言える。

「だるさ」だけではなく、「強さ」「よさ」「静かさ」「柔らかさ」「優しさ」など形容詞の派生名詞は使用頻度が高い。さらに「強さ」と「強み」の使い方の違い、「甘さ」と「甘み」、「温かさ」と「温かみ」、「弱さ」と「弱み」、「楽しさ」と「楽しみ」、「うまさ」と「うまみ」、「深さ」と「深み」、「重さ」と「重み」、「面白さ」と「面白み」、「厚さ」と「厚み」、「苦しさ」と「苦しみ」の違いは何なのか、そしてそれぞれの中国語訳の特徴は何か、今後の重要な研究課題となる。

第2節 留学生を対象とする日本語表現の習熟度の調査結果

2020年4月16日～5月5日において、京都外国語大学在学中の漢字圏留学生(70人)を対象にアンケート調査・電話調査を実施し、新型コロナウイルス関連の日本語表現の習熟度について調査した。漢字圏留学生(70人)のうち、日本語学習歴3年(15人)、日本語学習歴4年(20人)、日本語学習歴5年(20人)、日本語学習歴5年以上(15人)をA、B、C、Dの四つのグループに分けた。

【1】自粛

「自粛」は新型コロナウイルス感染流行の昨今、使用頻度の最も高い表現の一つである。「日本語の〈自粛〉は中国語にどのように訳すか」の問いに対して、被調査者70人中63人はすぐには答えられなかった(注3)。なぜ躊躇したかといえば、現代中国語に“自粛”という漢字表現がないからである。

「自粛」は法的な縛りはなく、強制力を伴わない行動制限だが、自ら言動を控えめにしたり、その行為をしないようにする、という自制を促す意味合いである。だが、自粛要請となると、表面的には単に協力してもらうという意味だが、

社会的な配慮や社会的責任、自己責任、自分の身は自分で守れ、自分の判断で行動を慎む、自分勝手なことをするな、他人に迷惑をかけるな、などが含意され、結構、重みのある表現と受けとめられる。

今回の調査で、「自粛」は中国語の“很自觉地不要做某事”“自律自制”“自我克制”“自戒”“低调行事”“自我约束”などにあたりと回答しているが、日本語の「自粛」にぴったり当てはまる表現はない。日本語独特の表現と言える。

【2】感染

・「愛知県は感染者数は確かに多いが、倍増するスピードが非常にゆっくりとしている。感染経路が分からない割合も比較的低い」と説明した。

「感染」という漢語は日本人が作ったものだが、現代中国語でも使われているので日中漢字同形語となる。「上記の文を中国語に訳してください」の問いに対して、正しい中国語訳率はAグループ(100%)、Bグループ(100%)、Cグループ(100%)、Dグループ(100%)、と高い正答率だった。名詞として用いられる「感染」が中国語と日本語で意味や用法が同じだからである。「感染が確認された」、「感染が判明した」のように名詞として使われることが多いが、動詞としても用いられる。

・昨天他在车站里被感染上了新冠肺炎。(正答訳は「昨日、彼は駅で新型コロナウイルスに感染した」)

「上記の文を<感染する>という動詞を使って日本語に訳してください」に対し、日本語訳の正答率はAグループ(13.3%)、Bグループ(20%)、Cグループ(30%)、Dグループ(66.6%)で、Dグループを除き、相当低かった。ほとんどの人は「昨日、彼は駅で新型コロナウイルスに感染された」と受け身の形で回答している。なぜならば、中国語の“感染”は通常、受け身の形をとり、被害的というイメージが強いからである。母語による影響と見られる。「感染した」と回答した学習者の多くはテレビで聞き覚えたという。

【3】全身のだるさ

・報告された症状の割合は発熱 79%、せき 76%、肺炎 63%、全身のだるさ 47%。/根据相关报告, 发病症状是: 发烧占 79%、咳嗽占 76%、肺炎占 63%、全身乏力占 47%。

「全身のだるさ」「体のだるさ」(「倦怠感」とも言う)は中国語の“全身乏力”にあたる。今回、中国の新聞記事を調査したところ、新型コロナウイルスの感染者の症状の「全身のだるさ」「倦怠感」にあたる中国語は、“全身乏力”のほか、“乏力”“没有力气”“人体乏力”“周身乏力”“四肢无力”“全身不适”があることが分かった。

「中国語の“全身乏力”は日本語でどのように言うのか」について調査したところ、「全身のだるさ」「倦怠感」と回答した人はAグループ(26.6%)、Bグループ(30%)、Cグループ(40%)、Dグループ(73.3%)と、A～Cグループはかなり低かった(注4)。そのうち「全身のだるさ」と回答した人は全体70人中わずか5人だけで、「体がだるい」と回答した人が圧倒的に多かった。

「体がだるい」「体のだるさ」なら、理解する学習者は多い。調査した結果、Aグループ(100%)、Bグループ(100%)、Cグループ(100%)、Dグループ(100%)だった。理解はできる。いわゆる理解語彙であって、使用語彙ではない(使いこなせない)。とくに、形容詞が名詞化された「だるさ」は使いこなせないという傾向が見られる。

「政策判断の甘さも指摘されることにもなりそうだ」「さみしさは言葉にできない」、「公正さ・誠実さをもとめる」、「克服の難しさ」、「よさは何か」のような「～さ」も同様で、理解はできるが、自分では使えない学習者がけっこう多い。

【4】収束

- ・疾病対策センター(CDC)による封じ込めは失敗し、収束の兆しは見えない。「世界最強」と言われたCDCに何が起きたのか。
- ・感染拡大が収束に向かう「ピークアウト」は見通せず
- ・新型コロナウイルスの終息を願い、人形店「久月」が世界各国のリーダー

を模した五月人形を作った。

よく観察すれば、「しゅうそく」は「収束」と「終息」のように、二通りある。前者は「混乱した状態がいったん落ち着く/ある程度おさまりがつく/事態が収拾する」の意が強く、後者は「混乱した状態が完全に終わった、完結する」の意が強い。

「<収束する>を使って文を作りなさい」の調査では、正しく文づくりのできた人はAグループ(33.3%)、Bグループ(40%)、Cグループ(50%)、Dグループ(73.3%)だった。

【5】深刻

現代中国語の“深刻”には日本語の「深刻」とは異なり、「深く」「掘り下げて」などの意味で、マイナス評価的な意味はない。日本語の「深刻」は「深刻な状態」「深刻な問題」など新型コロナウイルス感染の関連記事で使用頻度が高くなり高い表現である。

「日本語の<深刻>を使って文を作りなさい」の問いに対して、正しく日本語の<深刻>が使えた人はAグループ(66.6%)、Bグループ(70%)、Cグループ(85%)、Dグループ(93.3%)だった。

「日本語の<深刻な顔>はどんな顔なのか」の正答率はAグループ(53.3%)、Bグループ(60%)、Cグループ(75%)、Dグループ(93.3%)だった。

・新型コロナウイルスの感染で経済が深刻な打撃を受けるなか、自己破産の危機に直面する人たちが相次ぐ。

・米国で新型コロナウイルスの感染が確認された医療従事者は9200人以上、一部の州では感染者の11%を占めるというデータもあり、医療現場への負担が深刻になっている。

「上記の文を中国語に訳してください」の問いに対して、中国語訳の正答率はAグループ(93.3%)、Bグループ(95%)、Cグループ(95%)、Dグループ(100%)だった。前後の文から理解しやすかったのだろう。

・新型コロナウイルスの感染が拡大する欧州で、医療従事者の感染が深刻化

している。

上記の「深刻化」の「～化」も日本語ではよく使われる。「深刻化」「重症化」のようにその程度がますますひどくなることを表す場合もあれば、「小説化」「映画化」の「～化」のようにAをBに変えるという用法、さらに「男性の女性化」の「～化」のようにある傾向を表す用法もある。辞書でも日本語教材でもあまり説明されていないため、学習者を悩ませる。

【6】当面

現代中国語の“当面”は日本語とは異なり、その場で、じかに、顔を合わせる、面と向かう、という意味として用いられる。

・社長は「戦後最大の人類の危機だ。資金に当面問題はない。投資や出店を積極的に行い、新しい価値をもってこの危機に対応していきたい」と話した。

「<当面の問題>はどんな意味なのか」の調査の中国語訳の正答率はAグループ(53.3%)、Bグループ(65%)、Cグループ(80%)、Dグループ(86.6%)だった。

- ・大阪と兵庫の両府県警は運転免許の更新業務を16日から当面休止する。
- ・当面の間、営業を自粛させていただきます。

「上記の<当面><当面の間>を中国語に訳してください」の調査に対し、中国語訳の正答率はAグループ(40%)、Bグループ(65%)、Cグループ(75%)、Dグループ(86.6%)だった。

【7】自覚

<自覚>は日中漢字同形語である。現代中国語の“自觉”は自ら進んで、積極的に何かをやるという意味としてよく用いられ、日本語の「自覚」とは意味や使い方が異なる。

「日本語の<自覚/自覚する>を使って文を作りなさい」の調査では、正しく日本語の<自覚/自覚する>が使える人はAグループ(13.3%)、Bグループ(30%)、Cグループ(50%)、Dグループ(86.6%)だった。「大学生の自覚をもちなさい」を取り上げた例が多く、聞き覚えたかと思われる。

・自覚症状がなかった人は、人と接触した数日の間にせきや発熱、鼻水などの症状が出始めていて、研究グループはこうした発症前の潜伏期間にウイルスが飛まつなどを介してほかの人に感染したものとみています。

「日本語の〈自覚症状がない〉はどんな意味なのか」という問いに対して、正しく回答した人はAグループ(13.3%)、Bグループ(40%)、Cグループ(60%)、Dグループ(93.3%)だった。

【8】覚悟

〈覚悟〉は日中漢字同形語である。現代中国語の“覚悟”は、目覚める、覚醒するという意味でよく用いられる。

・知事は感染拡大が5月6日で終わるとは思えない。長い戦いになると覚悟して生活の見直しを、と訴えた。

「上記の文を中国語に訳してください」の調査に対し、中国語訳の正答率はAグループ(40%)、Bグループ(50%)、Cグループ(55%)、Dグループ(93.3%)だった。

中国語の“思想准备”“心理准备”“精神上的准备”は「覚悟する」「心構え」「心の準備」と訳される場合もある。「中国語の“思想准备”“心理准备”“精神上的准备”は日本語でどのように言うのか」の問いに対して、正しく回答した人はAグループ(53.3%)、Bグループ(65%)、Cグループ(75%)、Dグループ(93.3%)だった。

【9】集中治療室

・集中治療室での治療が必要となった患者35人の5割程度に糖尿病などの基礎疾患があった。

「上記の〈集中治療室〉を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率はAグループ(53.3%)、Bグループ(55%)、Cグループ(65%)、Dグループ(80%)だった。

「集中治療室」(ICU)は中国語で“重症监护室/重症监护病房/重症医学病房”と言う。また“重症加强护理病房”“加强监护病房综合治疗室”とも言う。香港

では“深切护理病房”、台湾では“深切治疗部”と言う。

【10】事情

現代中国語の“事情”は事柄、用事などの意味で、日本語の「事情」は「財政事情」「家庭の事情」のように「物事の状態」「原因や理由」「事の次第」を表し、意味や使い方が相当異なる。

「日本語の〈事情〉を使って文を作りなさい」の問いに対して、正しく日本語の〈事情〉が使えた人はAグループ(46.6%)、Bグループ(60%)、Cグループ(60%)、Dグループ(80%)だった。

・首都圏と事情が違うとして、県内に合った方法で、感染拡大を防ぐよう指示した。

- ・事情を踏まえた対応が可能になるように検討する。
- ・諸般の事情により、閉店する運びとなりました。

「上記の文を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率はAグループ(53.3%)、Bグループ(65%)、Cグループ(75%)、Dグループ(86.6%)だった。

【11】差別

・歴史を振り返れば、感染症は差別や嫌がらせと分かちがたく結びついてきた。ハンセン病患者の隔離が、大きな禍根を残したことは記憶に新しい。

「上記の文を中国語に訳してください」の調査において、中国語訳の正答率はAグループ(60%)、Bグループ(65%)、Cグループ(70%)、Dグループ(93.3%)だった。日本語の「差別」はこの場合、中国語で“歧视”“差别对待”“区别对待”と言う。

中国語の“差別”は、違い、区別、格差、差、へたどり、開き、という意味としてよく用いられ、日本語の「差別」の意味とは異なる。

- ・这两种颜色之间的差别很难区别。

「上記の文を日本語に訳してください」に対して、日本語訳の正答率(この二つの色の違いはなかなか区別がつかない/見分けできない)はAグループ(60%)、

Bグループ(80%)、Cグループ(85%)、Dグループ(93.3%)だった。

【12】下落

・飲食店や旅館などで使われる高級食材の下落が目立つ。

「上記の<下落>を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率はAグループ(46.6%)、Bグループ(50%)、Cグループ(60%)、Dグループ(86.6%)だった。

外出自粛で外食の需要が落ち込んでいるのが下落の要因となっているだろう。「下落」(ゲラク)は、「株価が下落する」のように物価や相場、また物事の価値などが下がることを意味するが、この表現は中国語にはないため、漢字圏学習者は文字通り「下に落ちる」ことは想像できるが、物価や相場にまで使われることを知らない学習者が多いことが窺える。

日本語の「下落」の使い方を説明したのち、下記の質問をした。

「日本語の<下落>と<落下>の違いについて説明しなさい」の問いに対して、ちゃんと説明できた人はAグループ(66.6%)、Bグループ(70%)、Cグループ(75%)、Dグループ(93.3%)だった。ついでに「<祖先>と<先祖>、<承継>と<継承>の違いについて説明しなさい」の問いに対して、二組の違いとも説明できた人はAグループ(33.3%)、Bグループ(45%)、Cグループ(45%)、Dグループ(80%)だった。

【13】要件

・(給付金)支給要件が分かりにくいとの声が多い。

・政府は16日、先行して緊急事態宣言を出した7都道府県と同様、累計の感染者数、感染者が2倍になる時間、感染経路を追えない人の割合の三つの要件を検討し、新たに北海道など6道府県を加えた。

「上記の<要件>を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率はAグループ(13.3%)、Bグループ(60%)、Cグループ(60%)、Dグループ(80%)と低かった。

「要件」は現代中国語にはない表現で、理解できる学習者はA～Cグループに

において案外少ないことが分かった。「要件」は中国語で“条件”“必要条件”と言う。「要件」は欠くことのできない条件の意味で、「必要条件」を短縮した表現と見られる。

【14】 給付

・経済対策で当初の方針を見直し、国民に一律 10 万円を給付する方針に転じたことに「混乱を招いた」と首相が陳謝した。

「〈給付金〉〈給付する〉を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率は A グループ (53.3%)、B グループ (60%)、C グループ (80%)、D グループ (93.3%) だった。

「給付する」「支給する」「給料」「給与」「給食」など「給」を伴う日本語の表現が多い。中国語の“給”は英語の「give」と同じ、「あげる」「もらう」の両方の意味をもつ。だが、「給付する」のような表現は上から与える〈賜う/給う〉という意味をもつという特徴が窺える。

【15】 一致団結、連帯、一丸となる、結束

「中国語の“团结一致”は日本語でどのように表現するのか」に対して、中国語訳の正答率は A グループ (53.3%)、B グループ (60%)、C グループ (60%)、D グループ (80%) だった。日本語の「一致団結」は中国語の“团结一致”と語順が異なる。

日本語には、「団結」「一致団結」のほか、人間と人間との結びつき、一つにまとまることを意味する表現が多い。「連帯」「一丸となる」「結束する」「心一つにする」、さらに「この国難を乗り越えるためには、国民との一体感が大切との考え方のもと決断した」の「一体感」などもそれである。

・国家を超えた連帯。

・山口氏は「広範な深い影響が社会・経済に及んでいる。その状況を踏まえ、国民にしっかりと連帯のメッセージを送るという趣旨で、首相に決断を促した」と述べた。

「上記の〈連帯〉を中国語に訳してください」に対して、中国語訳の正答率は A グループ(46.6%)、B グループ(55%)、C グループ(55%)、D グループ(73.3%) だった。「連帯保証人」「連帯責任」の「連帯」は知っているが、この場合の「連帯」を知らないと回答した人が案外、多かった。

・目標に向かって全員が一丸となって結束していた。

「上記の〈一丸となる〉〈結束する〉を中国語に訳してください」に対して、「一丸となる」の中国語訳の正答率は A グループ(33.3%)、B グループ(60%)、C グループ(70%)、D グループ(93.3%) だった。「結束する」の中国語訳の正答率は A グループ(40%)、B グループ(70%)、C グループ(80%)、D グループ(93.3%) だった。

以上、今回実施した京都外国語大学在学中の漢字圏留学生を対象とする日本語表現(新型コロナウイルス感染拡大の関連表現)の習熟度に関する調査報告であるが、「結束」「当面」「深刻」「下落」のような日本語と中国語における漢字同形語、「自粛」「要件」「一丸となる」のような日本語的な表現、「全身のだるさ」「感染した」のような形容詞や動詞の使い方の習熟度が低い。また、日本語教育に用いられる教材や辞書の解釈の問題にも関係すると考えられる。

今回の調査で「濃厚接触者」「基礎疾患」「飛沫感染」「エアロゾル感染」「密閉・密集・密接」「新規感染者」「医療崩壊を食い止める」「控える」「人口心肺」「もしもの時」「換気をこまめにする」「潜伏期間」「PCR 検査」「検査キット」「抗体検査」「非常時」「オンライン授業」「テレワーク、在宅勤務」「パンデミック」、「クラスター」、「オーバーシュート」などの日本語表現の習熟度についても調査した。

2008 年、中国四川大地震の際、地震をテーマに【日本語と中国語における地震関連の表現】の小冊子を作製した。それに続き、今回は新型コロナウイルス感染の関連表現の調査を通して、学習者の日本語の習熟度を把握し、通訳や翻訳の能力アップにつながれば、と期待する。

注

- 1) 『日本語基本動詞用法辞典』小泉保ほか 大修館書店 1989年
- 2) 『現代日本語の二字漢語動詞の自他』張志剛 くろしお出版 2014
- 3) 被調査者70人のうち、7人の回答は不正確だった。一部の人は「自粛」の中国語訳を“各自保持警戒心”(一人ひとり警戒心をもつように)、“不要外出, 呆在家里”(外に出ずに家にいるように)、“減少外出”(外出を減らすように)、“自我隔离”(自宅隔離)、と回答している。「自粛」は単に「警戒心をもつように」という意味ではない。また営業自粛、外出自粛、通勤自粛などもあり、単に「自宅にいるように」という意味でもない。
- 4) 「力が入らない」「力が出ない」「体が重い」「疲労感」「力が抜ける」と回答した人もいる。

